

委員会の動き

先進地保育所に関する調査

平成 29 年 11 月 14 日
教育民生常任委員長 三谷 幸一郎

「安芸市立安芸おひさま保育所」は平成 29 年 6 月 19 日に開所したばかりの保育所である。想定される南海地震の津波浸水区域内にあった安芸保育所（60 人）と染井保育所（40 人）が津波浸水区域外の高台に統合移転し、新たに「安芸市立安芸おひさま保育所」として開所し 100 人の園児達に通っている。木造平屋建てで柱や床などに木のぬくもりを感じながら、火災や地震の揺れにも強く、安全で快適な建物となっており、保護者のための駐車場も広く確保されている。また、保育所に入所していない乳幼児の保護者の一時的な就労や冠婚葬祭、育児疲れなどの際にお子さんを預かる一時保育事業も実施している。乳幼児とその保護者同士の交流の場となる地域子育て支援センターも併設しており、とても多機能で周辺環境も申し分ない保育所であった。



大杉保育所は施設の耐震化や通園路の環境に加えて、保小中一環教育の観点からも移転等の整備が喫緊の課題となっているが、「安芸市立安芸おひさま保育所」等を参考にして、保護者や職員の意見を十分に取り入れ、園児、保護者及び職員にとって機能的で使い勝手の良い保育所建設を望む。

安芸市立安芸おひさま保育所

意見書

「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第 2 条に規定する国の負担又は補助の割合の特例の継続等に関する意見書

（賛成者・全員）

総務産業建設常任委員長 上池 如夫

地域経済の活性化や防災力の向上に資する道路整備を推進し、安全・安心な利用を確保するための修繕、老朽化対策などを計画的に進めるため、道路予算全体を拡大したうえで、必要な額を確保し、「道路整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」第 2 条に規定する国の負担又は補助の割合の特例については、平成 30 年度以降も継続すること。さらに、地方創生のために真に必要な道路整備については、補助率等を拡充することを求める。

子どものための予算を大幅に増やし、国の責任で安心できる保育の実現を求める意見書（賛成者・全員）

教育民生常任委員長 三谷 幸一郎

地域の子ども・子育て支援を拡充するために国として認可保育所の整備計画、保育士等職員の配置基準の改善、そのための必要な財源を確保することを求める。

編集後記

初春を迎え町民の皆様方にとって、良き 1 年の始まりのことと謹んでお慶び申し上げます。

平成 30 年度から、国民健康保険の財政運営の責任主体が市町村から都道府県に変わり、安定的な財政運営や効率的な事業の確保等、国保運営に中心的な役割を担い、制度の安定化を目指すこととなります。他市町村と比べると医療費は高く、所得は低いなど本町にとっては、多くの課題があります。町民のご理解をいただきながら福祉向上に努めてまいります。ご意見やご提案をお待ちしております。

町民一人一人が良い 1 年でありますように、委員会一同お祈りいたします。

広報編集特別委員会
藤丸 高德

「ご意見やご感想は」

大豊町議会事務局
72・0450（代表）

議会からのお知らせ

◇旭日双光章を受章

元大豊町議会議長下村芳章氏が、地方自治の分野における永年に亘るご功績により、秋の叙勲において旭日双光章を受章されました。誠にめでたうございます。心よりお喜び申し上げます。今後においても元気で、ますますご活躍されますようにご祈念申し上げます。



◇大豊町中学校 3 年生による模擬議会を開催

12 月 19 日大豊町中 3 年生 13 名による模擬議会が開催されました。この模擬議会には傍聴の中学 2 年生 11 名、現職議員等が参加のもと本町の未来について中学生議員 6 名が代表質問を行いました。少し緊張気味で開催した模擬議会の質問内容は、介護対策、ご当地キャラクタ、アンテナショップ、地元作物のレストラン、動物とふれあえる施設、スポーツの推進などの幅広い提案をし、岩崎憲郎町長も、本議会さながらの答弁となりました。これを機会に、地域に対する関心をさらに高め、地域の一員として本町を担う活躍を期待いたします。

大豊町中学 3 年生による模擬議会

